

高血流におけるFIX-Eの除去 特性- FIX-Sとの比較-

援腎会すずきクリニック

○伊東 健、入谷麻祐子、鈴木翔太、本田周子、鈴木一裕

【目的】

- ニプロ社製FIX-Sは生体適合性がよく、ファウリングが少なく大分子領域の除去に優れた膜である。
- 当院でも大分子領域の除去を望む場合はFIX-Sを使用している。しかしAlbの漏出量も少なくない。
- そこで今回はAlbの漏出を抑える目的で発売されたFIX-EについてFIX-Sと比較したので報告する。

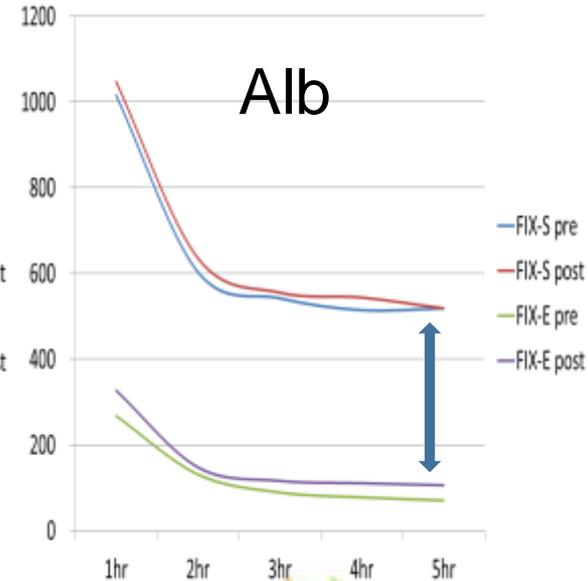
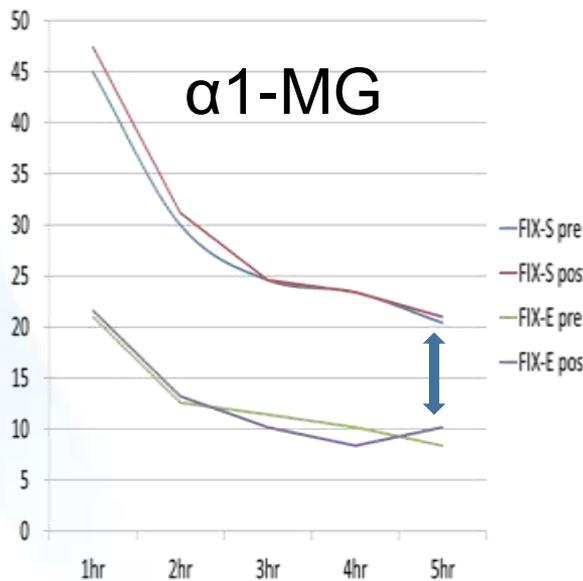
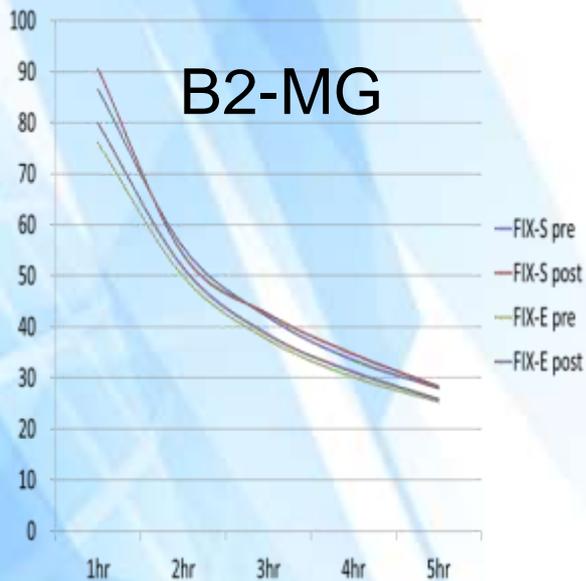
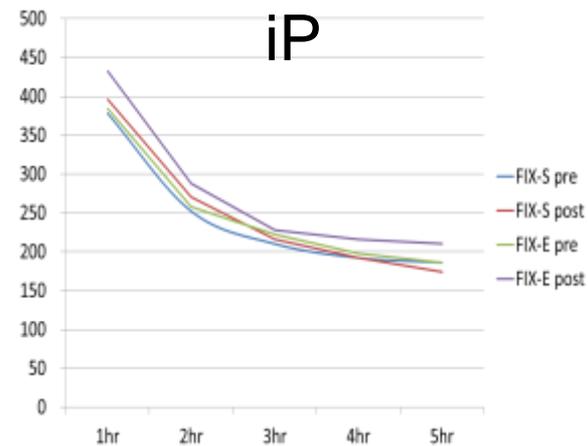
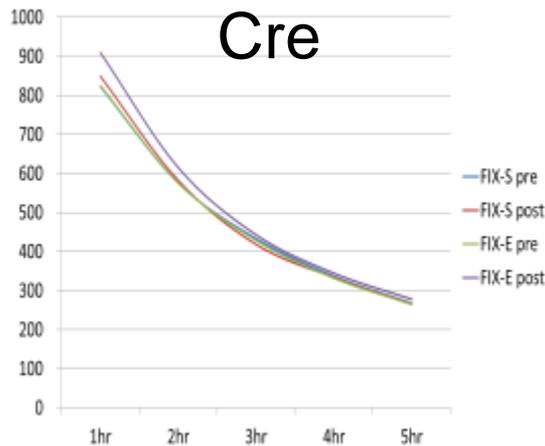
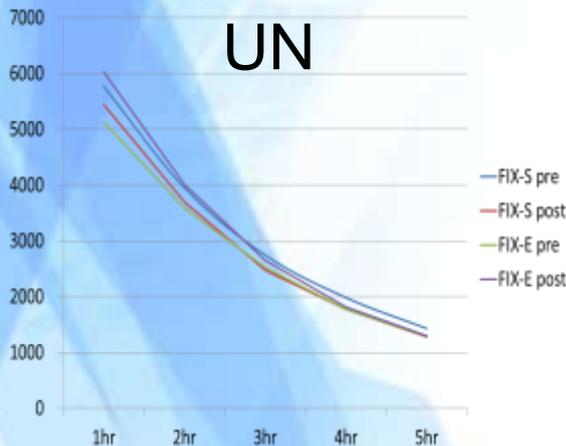
【対象】

慢性維持透析患者6名

年齢	61.0±9.4 歳
透析歴	54.5±28.2 ヶ月
DW	66.9±13.5 kg
透析時間	5 時間
QB	400 mL/min
Kt/V	2.2±0.4
GNRI	96.2±3.2

平成28年1月現在

【除去量の経時変化】



【考察】

- 我々は「FIX-Seco使用におけるオンラインHDFの選択は、栄養状態を考慮する場合は前希釈を選択し、積極的な低分子蛋白除去を求める場合は後希釈を選択する。その場合、小分子の除去効率をあげるためにも高血流で行う方がよい。」と報告してきた。
- 今回比較したFIX-Eは高血流においてもAlb漏出量が1g以下であり、 β 2MGの除去率も70%以上あったことから、多くの患者に使用できる膜と評価できる。
- しかし、 α 1MGの除去率は20%程度と低く、愁訴の強い患者には不向きと思われた。

【結語】

- オンラインHDFでは透析液の一部を補液として使う為、高血流で行う方が小分子量物質の除去に優れており、低分子量物質の除去については使用する膜と希釈法を選択する事で調節が可能である。

ハイパフォーマンス・メンブレン研究会 COI 開示

筆頭発表者名：伊東 健

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある企業などとして、

- | | |
|--------------|---------|
| ①顧問: | なし |
| ②株保有・利益: | なし |
| ③特許使用料: | なし |
| ④講演料: | なし |
| ⑤原稿料: | なし |
| ⑥受託研究・共同研究費: | ニプロ株式会社 |
| ⑦奨学寄付金: | なし |
| ⑧寄附講座所属: | なし |
| ⑨贈答品などの報酬: | なし |